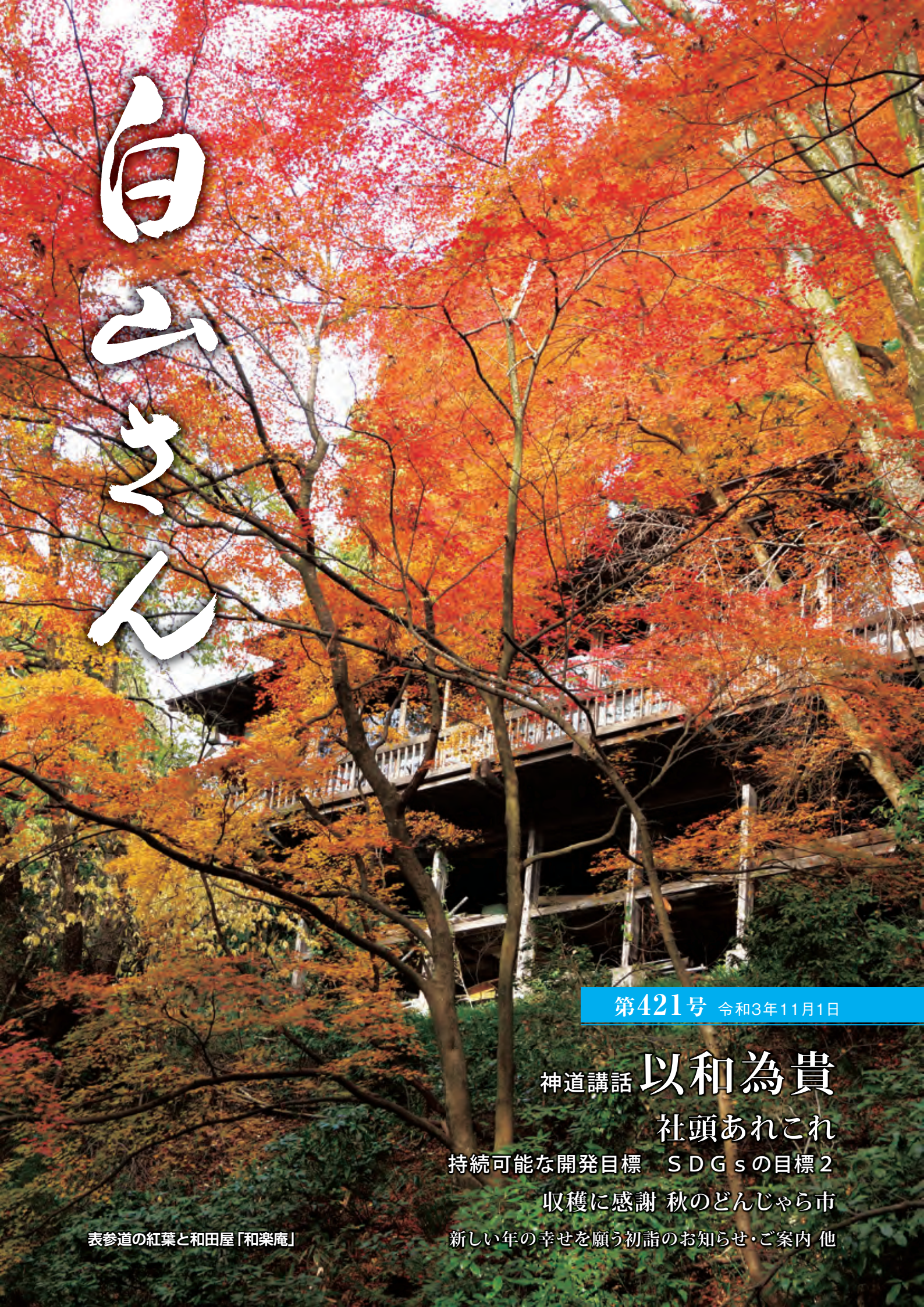

白山さん

第421号 令和3年11月1日

神道講話 以和為貴

社頭あれこれ

持続可能な開発目標　ＳＤＧｓの目標２

収穫に感謝 秋のどんじゃら市

新しい年の幸せを願う初詣のお知らせ・ご案内 他

表参道の紅葉と和田屋「和楽庵」

神道講話

以和為貴

宮司　村山和臣

はじめに

本年は聖徳太子が亡くなられてから一四〇〇年にあたります。「和をもって尊しとなす」は、聖徳太子の十七条の憲法の第一条に記されています。

一般には「仲良くするのは尊いことだ」という意味だとされていますが、本来は「和をなによりも大切なものとしなさい」という意味で「話し合いをすることが大切」あるいは「議論することが大切」であるといった意味であります。原文は漢文で記されており、四字熟語で、「以和為貴」とあり、「無忤為宗」と続き、「争いはするな」であり、十七条憲法の十七条目の冒頭には「大事なことは一人で決めず、みんなで議論して決めなさい」とあります。

この言葉は孔子の論語からの引用であるとも言われておりますし、明治天皇の五箇条の御誓文の「広く会議を興し万機公論に決すべし」にも通じるものがあります。

国のあり方と律令制

太子はその昔、日本の国のゆくすえを案じ、この国のあり方と律令制について考えました。

そして天智天皇時代の近江令、天武天皇時代の浄御原（きよみはら）律令、その後これを修正した文武天皇の大宝元年（七〇一）の大宝律令があり、また元正天皇の養老二年（七一八）に若干の修正をした養老律令があります。

奈良・平安時代の法制によって政治がおこなわれ、秩序と道徳が護られ、いわゆる「この国のかたち」あり方が築かれたのであります。

戦後六十年を経た平成十六年に制作された「歸国」（倉本聰著）のドラマのように、靖國神社に英霊として

太郎坊・阿賀神社夫婦岩（男磐・女磐）太子が霊威を感じ太郎坊山を篤く崇拝したと伝わる。[提供 太郎坊宮]

祀られた御魂が現代を見返した時に『こんな日本にするために我々は尊い命を捧げたのか』の一節が忘れられません。

また京都の一燈園は、昭和二十九年六月、国会で起きた与野党の乱闘事件を契機に、代議士を選んだ国民の側の責任をお詫びする証として、毎月皇居と靖国神社のトイレ掃除を奉仕していると聞きました。

当社では戦中、大前にて武運長久を祈り、出征していった御英霊に対し、少しでも御霊安かれと本年四月より神職を石川護國神社に派遣し、奉仕させて頂いております。

昭和12年 出征奉告祭（白山比咩神社境内）

鎮護国家とは、異変のないように国家を鎮め、守護することであります。

平安時代初期の空海（真言宗の開祖）は、高野山を開いた後、弘仁四年（八一三）朝廷より鎮護国家の道場として東寺を賜っているし、石清水八幡宮は貞観元年筑紫豊前国より京都の鎮護国家のために八幡大神の神霊を勧請しました。

現代が抱える問題

今、私たちがおかれている喫緊の問題は、地球環境問題や温暖化の問題、根強い人種や民族間の偏見、難民問題や各国家が抱える不調和、核開発やエネルギー問題、食糧問題、それに相対して生命の根本の意識を共有し、人類が目指すべき新たな時代の潮流を創り出すことが、この国のかたちを考える上で必要なことと思います。

「世界四大文明」と言われるメソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・黄河（中国）文明は「四大河文明」とも言われ、川を中心として栄えた文明であったが、上流の緑を破壊し、砂漠化したために文明が滅びたと言われています。

むすび

私たちは今何かを忘れているように思います。

「権利と義務・自由と平等のはきちがえ、平等と公平・公と私の別」であります。

例えば、消防士が、警察官が、看護士が、「個」を大事にし「公」をおろそかにしたらどうなるでしょう。

医療従事者や防災・救急に関わる人達は家族の事を気に掛けながらも公のために一所懸命尽くしているのです。

国の為、世界の人の為、何をなすべきか。自分を律し、国そして人々の幸せのために、国を修めるのが修理固成です。

自己中心の民主主義のように個を大切にしすぎる教育は、国を滅ぼします。

昔も今も陽は昇り、陽は沈み、やがて夜が明け一日が始ります。その一日は昨日と同じではなく、明日と同じでもない。全ての動植物が等しく与えられている恵みであります。

自然の生業（なりわい）のなかに神があり、生かされて生きています。その自然を我々は「カミ」といい崇めてきました。

今一度、改めて自然を見つめ直し、五感をもって心を養い調和のとれた社会を築きましょう。

蓬（よもぎ）も麻中（まちゅう）に生ずれば
扶（たす）けずして直し
―荀子―

（十月一日の今月のことば）
人は周囲によって育てられます。歴史・伝統と共に帝王学・国学・皇学など、人の上にたつ人間をしっかりと育成しこの国のあり方を考えたいと思います。

社頭あれこれ

① 第七十二回石川県下学童白山比咩神社境内写生大会表彰式開催

今年もコロナ禍での開催（四月二十四日から八月二十九日まで）でありましたが、多くの子供たちが神社に足を運び、それぞれの豊かな感性、視点から社殿や表参道、神馬、禊場などの細部までを、一所懸命に描いた力作が多く、素晴らしい大会になりました。

総数一六九点の作品が提出され、県内の美術教諭をはじめとする審査員八名の厳正なる審査において入選作品八六点が選ばれました。

九月十九日に奉告祭並びに表彰式が行われ、入選者には神社並びに後援の「北國新聞社」「ぺんてる」から賞状と賞品が贈呈されました。

特選作品は屏風仕立てにして神社で永久保存しています。

来年の七十三回写生大会も多くの参加者をお待ちしています。

写生大会表彰式

●準特選　14名

鶴来第一幼稚園	谷元真子
金大附属幼稚園	谷内壱成
朝日小１年	田中善士
朝日小２年	高畠里歩
蕪城小２年	森田都琶
明光小３年	福岡夏海
松南小４年	吉川凜々菜
額小５年	寺田心寧
国府小６年	今川綾菜
松任中１年	本多夏実
山代中１年	大下乃愛
松任中２年	石尾珠希
松任中２年	熊田心華
松任中３年	坂木此花

●特選　10名

鶴来第一幼稚園	山田未弥
国府小１年	坂田七音
館野小２年	木下萌子
田上小３年	藤田晃史郎
伏見台小４年	藤部七蔓
富樫小５年	大谷環太
広陽小６年	初崎結衣
松任中１年	八田未羽
松任中２年	中津川ひより
笠間中３年	宮崎由希

写生大会屏風（特選）

② 月の神様にコロナ退散への「仲秋の祈り」

九月二十一日は、旧暦の八月十五日「仲秋の名月」「十五夜」で、今年は八年ぶりに綺麗な丸い「満月」となりました。

国立天文台によると、月は楕円（だえん）軌道で回り、実際に月が新月から満月になるまでの期間は一定ではないため、必ずしも十五夜に満月になるというわけではないそうです。

夜空には明るい光を放った満月の下、当社では、午後八時から境内にて、疫病退散と世界平和を願う「仲秋の祈り」を初めて開催しました。

この祭事には、氏子崇敬者総代会、敬神婦人会、青年会ＯＢあしめる会、氏子青年会ら約五〇人が参列しました。

向拝前庭に、ススキと月見団子をお供えし、まず第一部に新型コロナウイルス感染症の終息と世界の平和を願う「大祓詞」を、太鼓の調子にあわせて神職・参列者ら一同が声をあわせて奏上しました。

第二部は、神職による「朝日舞（三人舞）」、舞女による「悠久の舞（四人舞）」、「浦安の舞（二人舞）」が奉納されました。

第三部では、月明かりの鎮魂（たましずめ）と題し、参列者に水を入れたコップの中に浮かべたろうそくの火を配布し、月明かりの光で包まれた境内で、ろうそくの火を三分間見つめ、月や自然に感謝しながら静かに祈りを捧げました。

冒頭の宮司挨拶では、「コロナ禍の一日も早い終息と、世のため人のために身も心も尽くしている（滅私奉公）方々に感謝の真心をささげたい」と述べました。

神職による朝日舞

月明かりの鎮魂

③ 月次詣特別崇敬者並びに加賀一ノ宮敬神婦人会 文化の秋「特別講演会」開催

十月七日、加賀一ノ宮敬神婦人会神谷ますみ会長以下会員二十二名参加のもと午後一時に秋季総会奉告祭を斎行、引き続き遊神の間で秋季総会、その後、月次詣特別崇敬者（月参り）の方々も参加しての特別講演会が開催されました。

コロナ禍で開催が心配されましたが、九月三十日の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の解除に伴い、換気・消毒等の対策を徹底した上で、開催することができました。

講演では、金沢まいもん寿司などを経営し、世界に日本の食文化を伝えている㈱エムアンドケイ代表取締役木下孝治氏に、「起業家としての夢と使命」と題して講演を頂きました。

先生は、夢の実現の為に一級建築士として建築業から始まり、その後外食産業を展開する会社を立ち上げ、百年続く会社を目指しています。

そして「守（しゅ）」（基本）「破（は）」（応用）「離（り）」（独自性）の言葉を軸に、学びの場の研修会や競争しあう環境づくり、人材教育、社員教育にも力を入れています。

最後に建築者として国づくり町づくりといった地方再生にも尽力していきたいと締めくくられました。

木下氏による特別講演会

④ 秋の恵みに感謝 神嘗奉祝祭・抜穂祭斎行

十月十七日午前十時より神嘗奉祝祭が厳粛に斎行されました。

神嘗祭とは、伊勢の神宮でその年に収穫された新穀を最初に天照大御神に捧げて御恵みに感謝するお祭りです。全国の神社では、その神嘗祭を奉祝する祭典が行われました。

また同日午後二時より氏子白山町内の奉耕田にて抜穂祭を斎行しました。

平成十三年より伊勢の神宮の神田で発見された「イセヒカリ」を下賜頂き、毎年大切に育てています。

当日は地元の小学生五名に早乙女として奉仕を戴き、田長の掛け声にあわせて、一株一株を心を込めて刈り取りました。

五月の御田植祭にも奉仕して戴いた早乙女らは「春にイセヒカリの苗を植えて、美味しく育ちますようにと願い、秋にとっても沢山の稲穂が実った一株の重さを感じ、嬉しく思いました」と、笑顔がこぼれていました。

調整された稲穂は、新嘗祭の御神前にお供えします。また伊勢の神宮へは「懸税（かけちから）」として予め奉納いたしました。

桧笠を被った早乙女ら

⑤ 豊年講秋季大祭斎行

昭和二十九年十一月二十三日に豊年講秋季大祭が斎行されてより、本年で六十八回目となる歴史ある講社大祭であります。

時代と共に、加賀平野一帯の農家世帯が減少傾向にありますが、霊峰白山の豊かな恵みに感謝する講員の皆様によりこの大祭が厳粛に斎行されております。

二十三日は手取川七ヶ用水土地改良区理事長本屋彌壽夫氏、二十四日は手取川宮竹用水土地改良区理事長善田晋作氏がそれぞれ豊年使として祭文を奏上し、霊峰白山の水の恩恵と大神様への感謝の誠を捧げ、益々のご加護をお祈りしました。

浦安の舞 奉奏

持続可能な開発目標
SDGsの目標2
飢餓をゼロに

撤下品（お下がり）の箸

SDGsはすべての人に安全で栄養ある食料を確保し、あらゆる形の栄養不良を解消し、人や自然にとって持続可能な農業を推進するとあります。

現代は世界の人口が増え続けると、食料の生産が追い付かず、結果的に食べ物を奪い合うことにつながるかもしれません。

しかしながら、食べ物の生産力を高めるために、やみくもに田畑を広げ、肥料を使ったりすれば良いというわけでもありません。環境や生態系を守り、災害にも強く、将来にわたって持続可能な方法で食べ物が安定的に収穫できる農業の仕組みなどが今求められているそうです。

私たち日本人は、農耕民族であり、自然を敬い、自然と共に生き、命ある物を食べ、日々感謝の誠を捧げています。

弥生時代神様に配膳するための儀式で使われたとされる「折箸」が現代の私たちが使用する「箸」に変化してきました。

古来から「箸には使った人の魂が宿る」と考えられ、大切に使い、正しく使うことで、愛着がわき、食べ物を美味しく頂くことが出来、自然と食へ感謝するわけであります。

全国の神社では、お参りのお下がりとして、箸を頂くことが多いかと思います。

「食べることは生きること」で、その為に当たり前に使っている箸も長い歴史や意味があり、大切にすべきものであります。

自然への感謝と、素晴らしい秋の実り、恵みを頂く喜びを共に分かち合いましょう。

食前感謝（しょくぜんかんしゃ）

たなつもの
百（もも）の木草（きぐさ）もあまてらす
日（ひ）の大神（おほかみ）のめぐみえてこそ
～いただきます～

食後感謝（しょくごかんしゃ）

朝（あさ）よひに
物（もの）くふごとに豊受（とようけ）の
神（かみ）の恵（めぐ）みを思（おも）へ世（よ）の人（ひと）
～ごちそうさま～

白山社めぐり(170)
柏森神社

鎮座地 愛知県丹羽郡扶桑町柏森
御祭神 菊理姫命・伊弉諾尊・大国主命・惶根尊
祭礼日 十月第二日曜日
氏子数 一七〇〇戸
宮司 村瀬真一
境内地 九九〇坪
旧社格 村社
主要建物 本殿（神明造）幣殿　拝殿　蕃塀

由緒

柏森神社は寛永年間（一六二四～一六四三）の創建と伝えられ、当時は白山社と称しました。古くは現在地を通称「中の宮」そこから西の方角には「西の宮」として大明神社が祀られていたが、明治四十一年合祀し改称しました。

またこれにあわせ本殿を造営し、拝殿は大正十一年、社務所は昭和五十六年に改築、併せて神馬像を建立しました。

当社の南北には清須市から犬山市を結ぶ当時の物流主要道路となる岩倉街道（柳街道）が伸び、至る所でその名称を見る史跡があり商店街も広がっています。

年間行事としては春には末社、市守さまへお参りし、街道沿いにて防火防犯パレードを行っています。

夏には無病息災を祈念し夏越祭と家祈祷、八月には境内にて盆踊り奉納を秋の例大祭には神輿奉仕者一同が小学校へ集結して出発式、その後清祓を受け町内を巡行したのちに当社へ参拝しています。

年間を通して区民が参加する神事も多く、氏子崇敬者に親しまれている氏神様です。

収穫に感謝　秋のどんじゃら市
2年ぶりに開催決定

海の幸（日本海）から山の幸（白山麓）までおいしい秋味大集合。
白山市の魅力満載のうらら白山人秋祭。
地元の美味しい秋の実りを体の五感、心の第六感で感じて楽しみましょう！
みんなでコロナウイルスをふっとばそう！
※詳細は白山市公式観光サイト
「うらら白山人」検索
問合せ　白山市観光連盟　TEL.076-259-5893

日　時	令和3年11月20日（土） 21日（日） 午前10時～午後3時予定
場　所	白山比咩神社北参道駐車場

賑わう北参道駐車場（令和元年）

良い年を迎えるための向春詣（こうしゅんもうで）
新しい年の幸せを願う初詣のお知らせ・ご案内

令和4年の初詣も新型コロナウイルス感染予防対策として密を避けて一足早く参拝することを推奨しています。

当社では12月22日から同月31日午後2時半まで（予定）の期間、「向春詣」と称し「春（新年）に向かって、家族皆が幸せに迎えられますように」と願いが込められています。

12月22日は、「冬至」にあたり、「あらゆる悪いことが去り、良い方向に転じる（一陽来復）」や「春の兆しが始まる日」を意味しており、新しい年が始まることになります。

そして、冬至には古くから日本の風習にあるように「ゆず湯」に入り、「小豆粥・カボチャ」を頂くことは、邪気を祓い、万病を退けると考えられてきました。

干支張り子（寅）

向春詣期間において、令和4年の破魔矢、鏑矢・干支張り子などの縁起物を授与致します。また本年も「疫病撃退絵馬付破魔矢」を数量500本を特別に準備致します。

ご希望があれば年内の12月22日の向春詣より家内安全、生業繁栄の新年初祈祷も受付致します。

なお、新しい年の「初詣」は、1月1日より2月3日の節分までの期間と致します。

参拝の皆様の健康と安全を守るため、神社では出来る限り境内での人と人の接触をしないよう、授与所での混雑、拝殿内での祈祷時間の滞在時間の短縮など徹底してまいりますので、参拝者の皆様方も体調の管理、マスクの着用、手指の消毒、大声で会話しないなどの協力をお願いします。

新年の初祈祷

※初詣・交通情報等はホームページ・ＳＮＳ等で、随時お知らせ致します。

家内安全・生業繁栄・交通安全・厄除開運・良縁成就・学業成就・合格祈願などの新年初祈祷を奉仕しております。家族お揃いで大神様へ日々の感謝の誠を捧げ、新しい年の福運と平安を祈りましょう。また、新年初祈祷されました方々には、元日午前0時より「除災招福金幣（じょさいしょうふくきんぺい）」を授与致します。

初祈祷奉仕時間

		（受付終了時間）
元日	午前零時 ～ 午後7:30	（午後7:00）
2・3日	午前7:00 ～ 午後6:00	（午後5:30）
4日	午前8:00 ～ 午後5:00	（午後4:30）
5日	午前9:00 ～ 午後5:00	（午後4:30）
6日～	午前9:00 ～ 午後4:30	（午後4:00）

交通規制の為お車の祓いは7日からご奉仕致します。

祭典と行事のご案内

11月

3日　午前9時半　五味島神社常例祭
3日　午前10時　明治祭
22日　午前10時　三宮社常例祭
23日　午前10時　新嘗祭

毎月

おついたちまいり　午前4時半より祈祷奉仕
1日・15日　午前10時　月次祭
15日　交通安全祈願祭

12月

29日　午前10時　煤払祭
29日　午前11時　大注連縄張り替え（氏子青年会 あしめる会（青年会OB））
31日　午後3時　年越大祓
31日　午後4時　除夜祭

◆祝祭日には国旗を掲げましょうー
11月3日（文化の日）
11月23日（勤労感謝の日）

白山茶会のご案内

11月の白山茶会は感染症拡大防止の為中止と致しますが、12月につきましては検討中です。有無についてはホームページ等でお知らせ致します。

奉　納

▼パナソニック液晶五十五型テレビ創立五十周年記念として
※参拝者控室に使用しています。
金沢市
株式会社石川コンピュータ・センター
代表取締役　山浦伯之

▼書「光」掛軸一幅
京都市
書画家　小林芙蓉
※書画を通じて世界中に「和の心」を伝え、全国の神社仏閣にて祈りの書を奉納しています。世界平和への祈りをこめて揮毫された作品を奉納頂きました。

令和4年 厄除け・還暦祝いご案内

厄年とは、災難や不幸に遭遇することが多いとされる年齢のことで、陰陽道の考えにもとづいて平安時代に広がったと言われています。

厄には災い、苦しみ、災難、不幸などの意味があり、災いを除けて無事に過ごせるよう神社で祈願祈祷を行います。

知らず知らずにつく厄を、節目節目の年でお祓いをすることが大切です。

厄除け

◇49歳（昭和49年生）男
◇42歳（昭和56年生）男（大厄）
◇25歳（平成10年生）男（大厄）

◇37歳（昭和61年生）女
◇33歳（平成2年生）女（大厄）
◇19歳（平成16年生）女（大厄）

還暦祝

◇61歳（昭和37年生）男女
〈男性は厄年〉
※いずれも年齢は数え年です。

編集後記

▼昨年からのコロナ禍の自粛が続き、物事が思うようにいかず、辛くて悔しい思いをしながら懸命に家族を守り、そして自分を守りながら日々お過ごしのことと拝察申し上げます。

▼私たちは、医療従事者をはじめそれぞれの立場でコロナと戦っている方々に感謝すると共に、コロナの終息や皆の幸せをひたすら祈り続けなければなりません。

▼人の歴史は祈りと共にありました。人は大自然の前ではもろく儚いもので、自然の一部に過ぎません。

▼古来から嵐が吹けば祈り、日照りが続けば祈り、疫病が流れば祈ってきました。

▼しかし、時代の流れで祈りという言葉は希薄化しているように思いますが、自然災害や禍事・災いには、謙虚な祈り、祈る姿が大切なのではないでしょうか。

（天）

白山さん　第421号
令和3年11月1日発行
発行所 ■白山本宮 加賀一ノ宮 白山比咩神社
〒920-2114　石川県白山市三宮町
TEL（076）272-0680（代）
FAX（076）273-0933
編　集 ■田中 天善
印　刷 ■高桑美術印刷株式会社
E-mail
hakusan@shirayama.or.jp
HP
http://www.shirayama.or.jp